

男里川河口鳥獸保護区

鳥獸保護区更新調査業務 報告書

令和6年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1.	調査の目的	1
2.	調査区域及び調査対象	1
3.	調査内容	1
4.	調査地の概要及び環境	2
5.	調査方法	3
6.	調査範囲および調査地点	4
7.	調査結果	5
7-1	現地調査結果.....	5
①	調査時期・天候・時間.....	5
②	鳥類確認種	6
③	鳥類の繁殖状況.....	8
④	ラインセンサス法による鳥類の生息個体数.....	9
⑤	定点観察法による鳥類の生息個体数.....	10
⑥	確認された重要種（鳥類）	11
⑦	哺乳類確認種.....	11
7-2	文献・資料調査結果.....	13
①	文献調査による鳥類確認種.....	14
②	文献調査で確認された重要種（鳥類）	17
③	文献調査による哺乳類確認種.....	19
④	文献調査で確認された重要種（哺乳類）	19
8.	まとめ	20
8-1	調査結果の集約.....	20
8-2	総括	20

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、男里川河口鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

泉南市と阪南市にわたる男里川河口鳥獣保護区（約 25ha）に生息する野生鳥獣等を調査対象とした。男里川河口鳥獣保護区の範囲は図 3-1 に示す。

3. 調査内容

既存データを活用し、実地調査により、次の事項を把握した。

- ・ 調査地の概要及び環境（地形、植生の状況等）
- ・ 鳥獣の生息状況（リスト作成）、生息区分、特色等

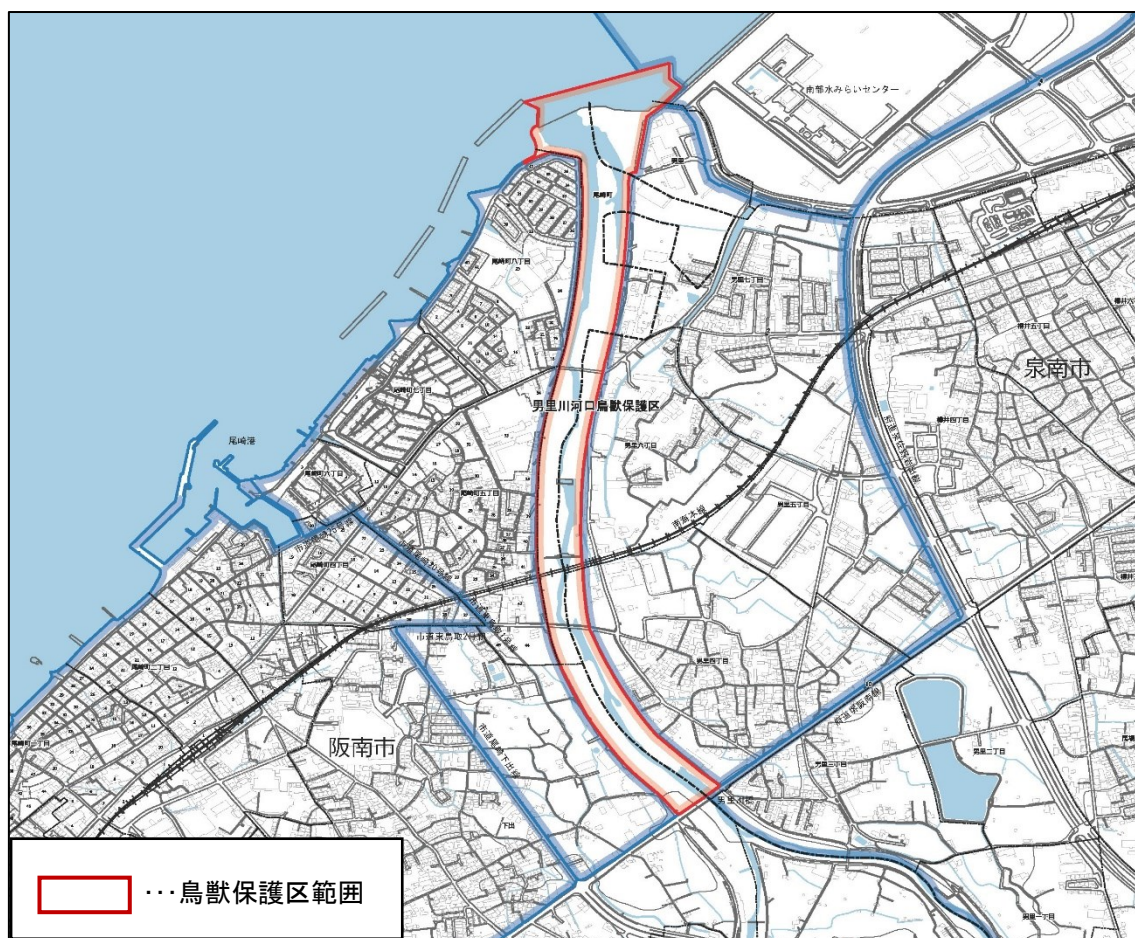


図 3-1 男里川河口鳥獣保護区の範囲

4. 調査地の概要及び環境

男里川は、和泉山脈に端を発する山中川・菟砥川の2河川の合流部を起点とし、同じく和泉山脈より流下する金熊寺川を合流、泉南台地を貫流して大阪湾に至る、流程約2.5km、流域面積58.66km²の2級河川である。このうち男里川河口鳥獣保護区は、府道堺阪南線（旧国道26号線）の男里川橋より下流側の、両岸の堤防に囲まれた約25haの範囲である。鳥獣保護区としては府下で最も面積が小さいが、府内唯一の天然の干潟が形成されており、野鳥や海の生物など貴重な生物の生息地となっている。

植生としては河川の開放水面の他、河口部と付近の中州は自然裸地に、上流側の中州は路傍雑草群落に分類されているが、河口付近の中州にも、現在は雑草の繁茂が見られる。河口付近の自然裸地は、規模は小さいながら塩生植物が豊富で、大阪湾でここでしか見られない底生動物が数多く生息することから、平成13年に「日本の重要湿地500」に選定されている。また、大阪府レッドリスト2014における生物多様性ホットスポットのAランクにも登録されている。

男里川の環境基準点は男里川橋に設定されており、河川の汚濁指標項目であるBODは昭和62年度には20mg/Lを記録したが、平成11年度以降は5mg/L以下まで改善し、平成27年度は1.6mg/Lと環境基準を達成している。

国道26号線より下流側には高水敷が整備されており、散策などに利用されている。また、河口付近は川幅が広く、野鳥の観察スポットとして有名である。

参考：令和元年5月、男里川水系河川整備計画、大阪府

[大阪府レッドリスト・大阪の生物多様性ホットスポット／大阪府（おおさかふ）ホームページ \[Osaka Prefectural Government\]](https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20316/guide20book20compact.pdf) <https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20316/guide20book20compact.pdf>

5. 調査方法

調査は、現地調査および表 5-1 に示す文献による文献調査を実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察法、任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、河川の堤外側 50m の範囲に出現した鳥獣を記録した。定点観察法では、調査定点に 30 分間滞在し、確認された鳥類を記録した。任意観察では、主として干潮時間に応じて河口干潟の各部で滞在、巡回しながら観察したほか、繁殖確認、写真撮影に注力した。調査時期は、繁殖期、秋の渡り期及び越冬期とした。

確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 5-2 に示すとおりである。

表 5-1 参考文献・参照資料

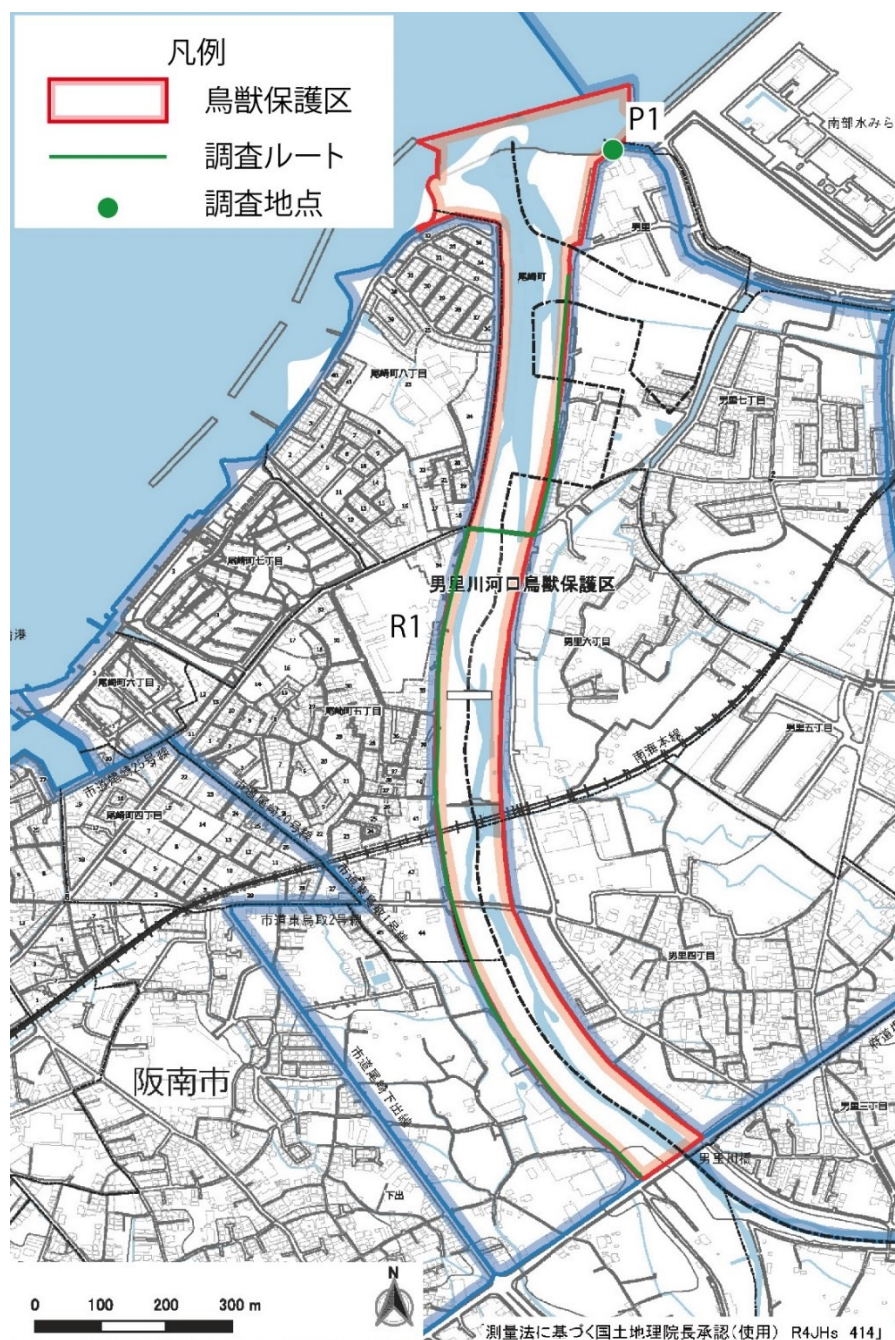
文献 No.	文献・情報名	発行または実施年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	平成 28 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	男里川定例探鳥会観察記録 https://wbs.josaka.com/bw/regular/onosato/2021/05/26/record/	平成 27 年～令和 6 年・日本野鳥の会大阪支部（2024 年 12 月 30 日更新）
情報 1	きしわだ自然資料館 風間美穂氏ヒアリング	令和 6 年 7 月 3 日実施

表 5-2 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2020（環境省 R L）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 R L）

6. 調査範囲および調査地点

調査範囲は男里川河口鳥獣保護区全域とした。ラインセンサス法の調査ルートは、鳥獣保護区の上流端にあたる男里川橋より左岸側堤防を歩き、菟砥橋で右岸側に移り、河口手前までの1.8kmを設定した。定点観察法の調査地点は河口部が見渡せる右岸側の堤防上にP1を設定した。調査ルート及び調査地点の位置は図 6-1 に示すとおりである。



7. 調査結果

7-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和 6 年 7 月 3 日	晴れ	R1	7:24～8:27
			P1	10:30～11:00
			任意	8:30～14:00
秋期	令和 6 年 9 月 20 日	快晴	R1	7:09～8:07
			P1	8:13～8:43
			任意	8:45～14:30
越冬期	令和 6 年 12 月 13 日	晴れの ち曇り	R1	7:41～9:04
			P1	11:15～11:45
			任意	9:10～11:15 11:50～14:30

② 鳥類確認種

現地調査の結果、12 目 29 科 64 種の鳥類を確認した。確認種の一覧を表 7-1 に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 38 種、夏鳥 3 種、冬鳥 18 種、旅鳥 4 種であり、留鳥 59%、夏鳥 5%、冬鳥 28%、旅鳥 6%と、一年を通してみられる留鳥が過半数を占めた（図 7-1）。渡り区分の分類は、基本的に「大阪府鳥類目録 2016」（日本野鳥の会大阪支部，2017）に従った。

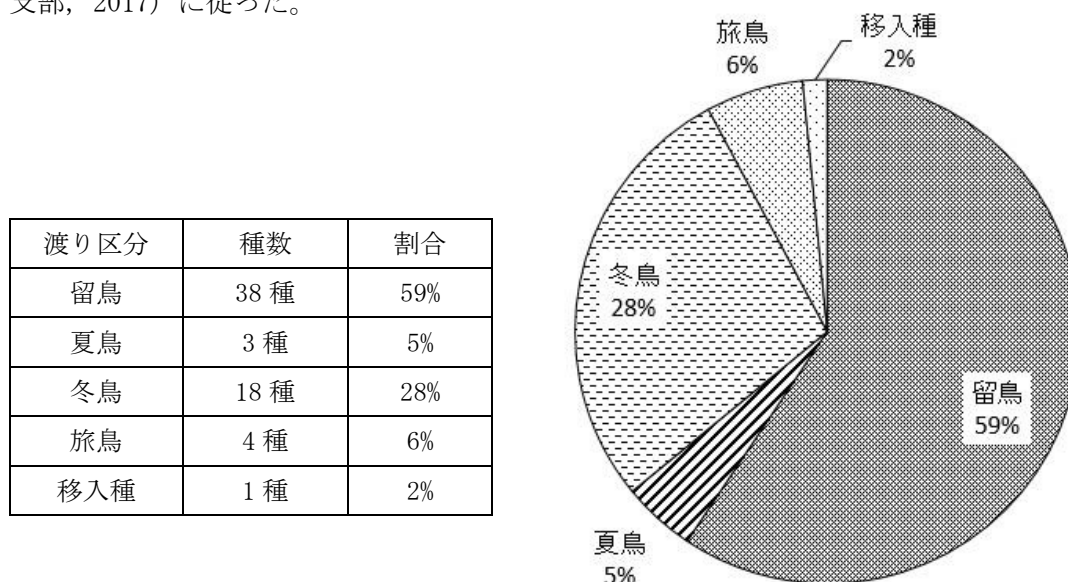


図 7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-1(1) 現地調査 鳥類確認種

No.	目 名	科 名	和 名	学 名	繁殖期	秋期	越冬期	渡り区分
1	カモ	カモ	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>			○	冬鳥
2			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>			○	冬鳥
3			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>			○	冬鳥
4			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	○	留鳥
5			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>			○	冬鳥
6			コガモ	<i>Anas crecca</i>			○	冬鳥
7			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>			○	冬鳥
8			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>			○	冬鳥
9	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		○	○	留鳥
10			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>			○	冬鳥
11	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	留鳥
12	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	留鳥
13	ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○	留鳥
14			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○	○	留鳥
15			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	○	留鳥
16			クロサギ	<i>Egretta sacra</i>			○	留鳥

表 7-1(2) 現地調査 鳥類確認種

No.	目 名	科 名	和 名	学 名	繁殖期	秋期	越冬期	渡り区分
17	ツル	クイナ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>			○	留鳥
18			オオバン	<i>Fulica atra</i>			○	留鳥
19	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>			○	留鳥
20			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	○	○	○	留鳥
21			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○	○		留鳥
22			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○			留鳥
23		シギ	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>			○	冬鳥
24			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>		○		旅鳥
25			ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>		○		旅鳥
26			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	○	留鳥
27			オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>		○		旅鳥
28			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>		○		旅鳥
29		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>			○	冬鳥
30			ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○	○	○	留鳥
31			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>			○	冬鳥
32			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	○			夏鳥
33	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		○	○	留鳥
34		タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○	留鳥
35	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>			○	留鳥
36	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>			○	留鳥
37	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>			○	留鳥
38	スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		○	○	留鳥
39		カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○		○	留鳥
40			ハシボトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	留鳥
41		シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○			留鳥
42		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○	留鳥
43		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○			夏鳥
44			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○	○		夏鳥
45		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	留鳥
46		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>			○	留鳥
47		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>			○	留鳥
48		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>		○		留鳥
49		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	○	留鳥
50		ヒタキ	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>			○	冬鳥
51			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○	○	留鳥
52		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	留鳥
53		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		○		留鳥
54			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	○	留鳥
55			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	○	留鳥
56			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>			○	冬鳥
57		アトリ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	○	留鳥
58			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>			○	冬鳥
59		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>			○	留鳥
60			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>			○	冬鳥
61			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			○	冬鳥
62			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>			○	冬鳥
63			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>			○	冬鳥
64	(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>	○	○	○	移入
	12 目	29 科	64 種		27 種	31 種	52 種	

③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された 27 種のうち、男里川河口鳥獣保護区域及び周辺に見られない環境でコロニーを作って繁殖する種である、カワウ及びサギ類 3 種（樹林）、ウミネコ（島嶼）、コアジサシ（広い河川敷や造成地）の 6 種を除く 21 種については、いずれも調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 7 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され（繁殖ランク B）、調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性が高い。なお、秋季にも繁殖期を有するキジバトについては、秋季に観察された求愛行動を反映した。繁殖ランク A（繁殖確認）に該当する観察記録として、コシアカツバメの営巣および巣への出入りが確認された。繁殖の可能性がある種の内訳は表 7-2 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ, 2014）に準じた。

表 7-2 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 1 種	10	成鳥が巣あるいは巣のあるらしい所にくり返し出入りしている	コシアカツバメ
B (繁殖の可能性が高い) 7 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イソヒヨドリ、セグロセキレイ
	31	求愛行動をみた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	キジバト
	37	成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が周囲にあるかどうかわからない	ムクドリ
C (繁殖の可能性あり) 13 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	カルガモ、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリ、イソシギ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ハクセキレイ、ドバト

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ, 2014）
<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi> を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ ラインセンサス法による鳥類の生息個体数

ラインセンサス法による調査の結果、9 目 22 科 43 種 415 個体の鳥類を確認した。調査回毎の個体数を表 7-3 に示す。秋季にムクドリ、冬季にヒヨドリ、カワラヒワが群れで飛来したため、これら群性の強い種が個体数の上位を占めた。いずれも、河川敷の裸地や草地、低木に生息する陸生種である。次いで、水域のカモ類をはじめ、サギ類、シギ・チドリ類、セキレイ類といった水辺の鳥が随所で多く確認された。特筆すべき点として、河口付近にもかかわらず、底質には礫が多く含まれるため、イカルチドリ、セグロセキレイといった、一般には河川の中流域に生息する種がよく見られた。草地環境では、河口付近のヨシ原はあまり発達していないため、ヨシ原で越冬するオオジュリンは少数の確認にとどまり、繁殖するオオヨシキリは確認されなかった。下流部の中州は路傍雑草群落の高茎草地が広がっており、越冬期を中心にホオジロ類、スズメ、カワラヒワなど草の種子を餌とする小鳥類が多く確認された。

表 7-3 (1) ラインセンサス法 調査回毎の確認個体数

No.	目 名	科 名	種 名	R1			総計
				繁殖期	秋期	越冬期	
1	カモ	カモ	オカヨシガモ			12	12
2			ヒドリガモ			14	14
3			マガモ			1	1
4			カルガモ	16	1	2	19
5			コガモ			19	19
6	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		1	3	4
7	ハト	ハト	キジバト	1		6	7
8	カツオドリ	ウ	カワウ	6	3	8	17
9	ペリカン	サギ	アオサギ	2		4	6
10			ダイサギ	1	7	1	9
11			コサギ	2	9	10	21
12	ツル	クイナ	バン			2	2
13			オオバン			1	1
14	チドリ	チドリ	イカルチドリ	1	3	14	18
15			コチドリ	2	4		6
16		シギ	クサシギ			1	1
17			キアシシギ		2		2
18			イソシギ	1	2	2	5
19		カモメ	ウミネコ	2			2
20	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			2	2
21	スズメ	モズ	モズ		1	8	9
22		カラス	ハシボソガラス	2		2	4
23			ハシブトガラス		2	2	4
24		ツバメ	ツバメ	5			5
25			コシアカツバメ	1	3		4
26		ヒヨドリ	ヒヨドリ		1	31	32
27		ウグイス	ウグイス			1	1
28		セッカ	セッカ		5		5
29		ムクドリ	ムクドリ	2	61	8	71
30		ヒタキ	ジョウビタキ			2	2
31			イソヒヨドリ		2	2	4
32		スズメ	スズメ	6	10	8	24
33		セキレイ	キセキレイ		1		1
34			ハクセキレイ	1	2		3
35			セグロセキレイ	1	2	6	9

表 7-3 (2) ラインセンサス法 調査回毎の確認個体数

No.	目 名	科 名	種 名		R1			総計
					繁殖期	秋期	越冬期	
36	スズメ	アトリ	カワラヒワ	2	7	24	33	
37			シメ			1	1	
38		ホオジロ	ホオジロ			2	2	
39			ホオアカ			2	2	
40			カシラダカ			3	3	
41			アオジ			13	13	
42			オオジュリン			6	6	
43	(ハト)	(ハト)	ドバト		4	5	9	
	9 目	22 科	43 種	種数	18	22	35	43
				個体数	54	133	228	415

⑤ 定点観察法による鳥類の生息個体数

定点観察法による調査の結果、7 目 16 科 24 種 151 個体の鳥類を確認した。調査回毎の個体数を表 7-4 に示す。河口部には随時、水鳥の群れが休息に飛来し、繁殖期にはウミネコ、秋期にはトウネン、冬季にはヒドリガモの群れが観察された。また、ミサゴのように広範囲を行動圏とする猛禽類や、主に岩礁などの自然海岸に生息するクロサギの飛来も確認された。

表 7-4 定点観察法 調査回毎の確認個体数

No.	目 名	科 名	種 名	P1			総計	
				繁殖期	秋期	越冬期		
1	カモ	カモ	ヒドリガモ			21	21	
2	ハト	ハト	キジバト	1			1	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	4	2	9	15	
4	ペリカン	サギ	アオサギ	2	1	2	5	
5			ダイサギ	2			2	
6			コサギ	1		1	2	
7			クロサギ			1	1	
8	チドリ	シギ	イソシギ			1	1	
9			オバシギ		1		1	
10			トウネン		10		10	
11		カモメ	ユリカモメ			2	2	
12			ウミネコ	57	2		59	
13			セグロカモメ			2	2	
14	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	1	2	
15		タカ	トビ	1	2		3	
16	スズメ	カラス	ハシボソガラス			1	1	
17			ハシブトガラス	1			1	
18		ヒバリ	ヒバリ			2	2	
19		ツバメ	ツバメ	4			4	
20		ヒヨドリ	ヒヨドリ			1	1	
21		ムクドリ	ムクドリ	1		4	5	
22		ヒタキ	イソヒヨドリ		2	2	4	
23		セキレイ	ハクセキレイ	1	1	2	4	
24		アトリ	カワラヒワ	2			2	
	7 目	16 科	24 種	種数	12	9	15	24
				個体数	77	22	52	151

⑥ 確認された重要種（鳥類）

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は4目9科19種であった。確認された重要種を表7-5、確認位置を図7-2に示す。

国際希少野生動植物種に選定されているオバシギが確認されたほか、環境省レッドリスト掲載種は4種、大阪府レッドリスト掲載種は18種確認された。

表 7-5 確認された重要種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カモ	カモ	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>			NT
2	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>		DD	NT
3			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			VU
4			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>			NT
5			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>		VU	VU
6		シギ	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>			NT
7			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>			NT
8			ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>			VU
9			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>			NT
10			オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	国際		VU
11			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>			NT
12		カモメ	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>		VU	CR+EN
13	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT	
14	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>			NT
15		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT
16		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>			NT
17		ホオジロ	ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>			NT
18			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			NT
19			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>			NT
計	4目	9科	19種		1種	4種	18種

種の保存法 国際：国際希少野生動植物種

環境省および大阪府レッドリスト

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種

DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

⑦ 哺乳類確認種

現地調査において、哺乳類は確認されなかった。

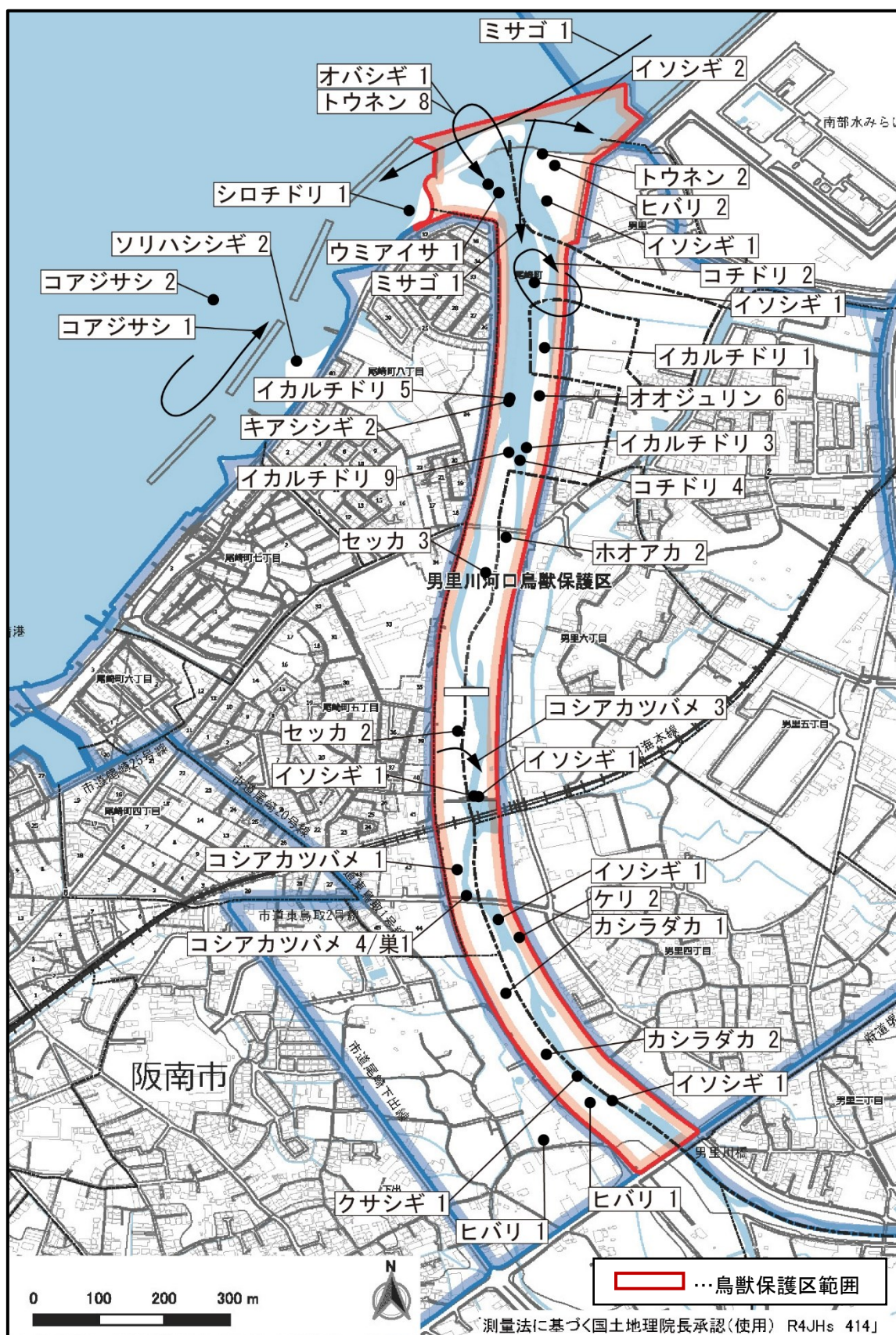


図 7-2 重要種確認位置図

7-2 文献・資料調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献・資料の記載概況を表 7-6 に示す。

表 7-6 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	大阪府鳥類目録 2016 (日本野鳥の会大阪支部)	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から男里川において確認された記録とわかる種を抜粋。
文献 2	男里川定例探鳥会観察記録	2015～2024 年の 10 年間の探鳥会記録
資料 1	きしわだ資料館 風間美穂氏ヒアリング	近年男里川で確認された哺乳類について

① 文献調査による鳥類確認種

文献調査の結果、20 目 58 科 140 種の鳥類を確認した。確認種を表 7-7 に示す。文献別では、文献 1 で 108 種、文献 2 で 119 種が確認された。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 46 種、夏鳥 12 種、冬鳥 45 種、旅鳥 31 種、迷鳥 4 種であった（表 7-7、図 7-3）。現地調査より冬鳥が留鳥と同等に多く、旅鳥も全体の 22% と多くを占めた。カモ類、カモメ類等の水鳥には冬鳥が多く、年によって渡来数の波がある、また、旅鳥は短期間の滞在で渡去してしまうため、単年度の調査では把握することが難しい。干潟を利用するシギ・チドリ類に旅鳥が多いほか、河川敷の草地や付近の低木にムシクイ科やヒタキ科の旅鳥も渡来している様子である。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（日本野鳥の会大阪支部，2017）に従った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	46 種	33%
夏鳥	12 種	9%
冬鳥	45 種	32%
旅鳥	31 種	22%
迷鳥	4 種	3%
移入種	2 種	1%

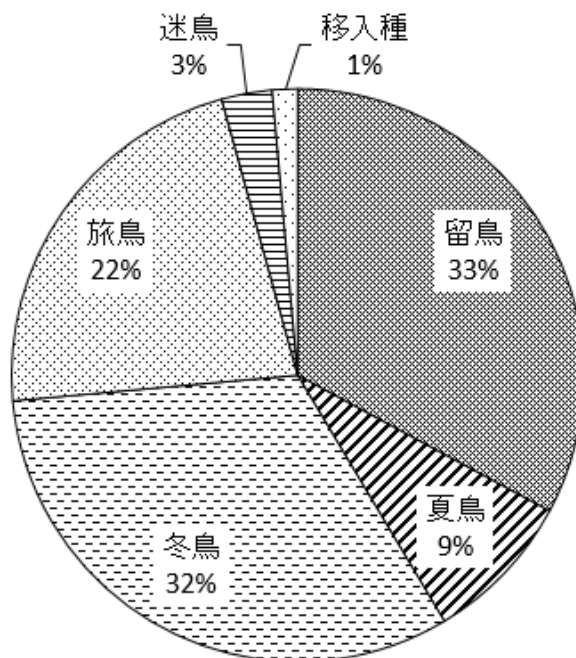


図 7-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-7(1) 文献調査 鳥類確認種(1/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	渡り 区分
1	キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○		留鳥
2	カモ	カモ	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○	○	冬鳥
3			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	○	○	冬鳥
4			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○	○	冬鳥
5			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	○		冬鳥
6			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	冬鳥
7			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	留鳥
8			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	○	○	冬鳥
9			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○	○	冬鳥
10			シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	○		旅鳥
11			コガモ	<i>Anas crecca</i>	○	○	冬鳥
12			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	○	○	冬鳥
13			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>		○	冬鳥
14			スズガモ	<i>Aythya marila</i>	○	○	冬鳥
15			シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>	○		迷鳥
16			ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>	○	○	迷鳥
17			クロガモ	<i>Melanitta americana</i>	○		冬鳥
18			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>		○	冬鳥
19			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	○	○	冬鳥
20	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	○	留鳥
21			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	○	○	冬鳥
22			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>		○	冬鳥
23	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	留鳥
24	カツオドリ	カツオドリ	カツオドリ	<i>Sula leucogaster</i>	○		迷鳥
25		ウ	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>	○		冬鳥
26			カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	留鳥
27			ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	○	○	冬鳥
28	ベリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	留鳥
29			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	留鳥
30			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○	留鳥
31			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○		旅鳥
32			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	留鳥
33	ツル	クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	○	○	冬鳥
34			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>		○	留鳥
35			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	○	○	留鳥
36			オオバン	<i>Fulica atra</i>		○	留鳥
37	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>		○	夏鳥
38	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	○	○	留鳥
39			ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	○	○	旅鳥
40			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	○	○	旅鳥
41			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	○	○	留鳥
42			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○	○	留鳥
43			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	○	留鳥
44			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	○	○	旅鳥
45			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	○		旅鳥
46		ミヤコドリ	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	○		冬鳥
47		セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	○		旅鳥
48		シギ	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>		○	冬鳥
49			オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	○	○	旅鳥
50			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○	○	旅鳥
51			ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>	○		旅鳥
52			ハウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	○		旅鳥
53			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	○		冬鳥
54			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	○	○	旅鳥
55			ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>	○	○	旅鳥
56			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	留鳥
57			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	○	○	旅鳥
58			オバンシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	○	○	冬鳥
59			ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>	○	○	旅鳥
60			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	○	○	旅鳥
61			ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	○		旅鳥
62			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	○	○	冬鳥
63		ツバメチドリ	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	○		旅鳥
64		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	○	○	冬鳥

表 7-7 (2) 文献調査 鳥類確認種(2/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	渡り 区分
65	チドリ	カモメ	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>	○	○	冬鳥
66			ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○	○	留鳥
67			カモメ	<i>Larus canus</i>	○	○	冬鳥
68			ワシカモメ	<i>Larus glaucescens</i>		○	冬鳥
69			シロカモメ	<i>Larus hyperboreus</i>	○		迷鳥
70			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	○	○	冬鳥
71			オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	○	○	冬鳥
72			ニシセグロカモメ	<i>Larus fuscus</i>		○	冬鳥
73			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	○	○	夏鳥
74			アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>	○		旅鳥
75			クロハラアジサシ	<i>Chlidonias hybrida</i>	○		旅鳥
76	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	留鳥
77		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		○	夏鳥
78			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	留鳥
79			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○	冬鳥
80			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○	留鳥
81			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○		冬鳥
82	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	留鳥
83	キツツキ	キツツキ	コガラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>		○	留鳥
84	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	○	留鳥
85			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	○	留鳥
86	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		○	夏鳥
87		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	留鳥
88		カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	留鳥
89			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	留鳥
90		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>		○	冬鳥
91		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>		○	留鳥
92			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>		○	留鳥
93			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	留鳥
94		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	留鳥
95		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	夏鳥
96			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○	○	夏鳥
97			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	○	夏鳥
98		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	留鳥
99		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	留鳥
100		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>		○	留鳥
101		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		○	旅鳥
102			メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>		○	旅鳥
103			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>		○	旅鳥
104			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>		○	夏鳥
105		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	留鳥
106		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	○	○	夏鳥
107		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	○	○	留鳥
108		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	留鳥
109		ヒタキ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		○	夏鳥
110			マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>		○	旅鳥
111			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		○	冬鳥
112			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>		○	旅鳥
113			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○	○	冬鳥
114			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>		○	旅鳥
115			ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>		○	旅鳥
116			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>		○	旅鳥
117			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	○	○	冬鳥
118			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	○	○	旅鳥
119			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○	留鳥
120			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>		○	旅鳥
121			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>		○	旅鳥
122			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		○	夏鳥
123			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○	夏鳥
124		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	留鳥
125		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	留鳥
126			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	留鳥
127			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	留鳥
128			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○	○	冬鳥

表 7-7 (3) 文献調査 鳥類確認種(3/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	渡り 区分
129	スズメ	セキレイ	タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	○	○	冬鳥
130		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○	○	冬鳥
131			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	留鳥
132			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○		冬鳥
133			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	冬鳥
134			イカル	<i>Eophona personata</i>		○	留鳥
135		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	留鳥
136			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	○	○	冬鳥
137			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○	冬鳥
138			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	○	○	冬鳥
139	(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>	○	○	移入
140	(スズメ)	(ムクドリ)	ハッカチョウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>		○	移入
	14 目	40 科	140 種		108 種	119 種	

文献 1：大阪府鳥類目録 2016（日本野鳥の会大阪支部, 2017）

文献 2：男里川定例探鳥会記録（平成 27 年～令和 6 年）

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会, 2012 年）に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（日本野鳥の会大阪支部, 2017）に従った。

② 文献調査で確認された重要種（鳥類）

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は 8 目 18 科 48 種であった。確認された重要種を表 7-8 に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が 6 種、環境省レッドリスト記載種が 19 種、大阪府レッドリスト記載種が 40 種確認された。該当種はチドリ目をはじめとする水鳥が大部分であった

表 7-8 文献調査によって確認された重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カモ	カモ	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>			NT
2	カツオドリ	ウ	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>		EN	
3	ペリカン	サギ	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>		NT	
4	ツル	クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>			NT
5			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>		NT	VU
6	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>		NT	VU
7	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>		DD	NT
8			ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>			VU
9			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>			VU
10			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			VU
11			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>			NT
12			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>		VU	VU
13			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	国際		VU
14			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	国際		NT
15		セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>		VU	
16		シギ	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>			NT
17			オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	国際	VU	VU
18			チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>			NT
19			ダイシヤクシギ	<i>Numenius arquata</i>			NT
20			ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	国際	VU	NT
21			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>			NT
22			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>			NT
23			ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>			VU
24			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>			NT
25			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>			VU
26			オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	国際		VU
27			ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>			NT
28			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>			NT
29			ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>			VU
30			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>		NT	
31		ツバメチドリ	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>		VU	CR+EN
32		カモメ	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>		VU	NT
33			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>		VU	CR+EN
34	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT	
35		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		NT	CR+EN
36			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT	
37			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		NT	NT
38			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			NT
39	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	国内	VU	
40	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>			NT
41		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT
42		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		DD	
43			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT
44		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>			NT
45		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>			NT
46		ヒタキ	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>			VU
47		ホオジロ	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			NT
48			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>			NT
計	9 目	20 科	48 種		6 種	19 種	40 種

種の保存法 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種

環境省および大阪府レッドリスト

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種

DD：情報不足

評価するだけの情報が不足している種

③ 文献調査による哺乳類確認種

文献・資料調査の結果、5 目 7 科 8 種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表 7-9 に示す。分類および配列は「世界哺乳類標準和名目録」（日本哺乳類学会, 2018）に従った。

表 7-9 文献・資料調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	学名	資料 1
1	齧歯	ネズミ	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	○
2			ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>	○
3	兔形	ウサギ	ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○
4	真無盲腸	モグラ	コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>	○
5	食肉	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○
6		イタチ	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica coreana</i>	○
7		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	○
8	鯨	ネズミイルカ	スナメリ	<i>Neophocaena phocaenoides</i>	○
	5 目	7 科	8 種		8 種

資料 1：きしわだ自然資料館 風間美穂氏ヒアリング

④ 文献調査で確認された重要種（哺乳類）

文献・資料調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種は 2 目 2 科 2 種であった。確認された重要種を表 7-10 に示す。

なお、スナメリについては、他の水産関係法令により捕獲等について適切な保護管理がなされている動物として、鳥獣保護管理法の対象外の扱いとなる。

表 7-10 文献・資料調査で確認された哺乳類の重要種

No.	目名	科名	種名	学名	文化財 保護法	種の保 存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	齧歯	ネズミ	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>				NT
2	鯨	ネズミイルカ	スナメリ	<i>Neophocaena phocaenoides</i>				VU
計	2 目	2 科	2 種		0 種	0 種	0 種	2 種

VU：絶滅危惧Ⅱ類
NT：準絶滅危惧種

絶滅の危険が増大している種
存続基盤が脆弱な種

8. まとめ

8-1 調査結果の集約

- ・現地調査の結果、12 目 29 科 64 種の鳥類が確認された。重要種はこのうち 19 種であった。渡り区分の内訳は留鳥が過半数を占め、夏鳥は少なかった。繁殖が確認された種（A ランク）はコシアカツバメ 1 種、繁殖の可能性が高い種（B ランク）は 7 種であった。
- ・ラインセンサス法で記録された鳥類は 9 目 22 科 43 種 415 個体、定点観察法で記録された鳥類は 7 目 16 科 24 種 151 個体であった。秋季にムクドリ、越冬期にヒヨドリ、カワラヒワが群れで飛来し、個体数の上位を占めたが、カモ類をはじめ、サギ類、シギ・チドリ類、セキレイ類といった水辺の鳥も随所で多く、特に河口部ではウミネコ、トウネン、ヒドリガモの群れが観察された。イカルチドリ、セグロセキレイといった中流域を好む種も、河口近くで確認された。草地環境では、ヨシの生育は良好ではないが、ヨシ原で越冬する少数のオオジュリンが確認された。中州の高茎草地には、越冬期を中心にホオジロ類、スズメ、カワラヒワなど種子食の小鳥類が多く生息していた。
- ・文献調査の結果、14 目 40 科 140 種の鳥類が確認された。重要種はこのうちチドリ目を中心とした 48 種であった。渡り区分では、留鳥が最も多いものの冬鳥も同等に多く、旅鳥がこれに次いだ。単年度の現地調査では把握しにくい、渡来数に変化のある冬鳥、滞在期間が短い旅鳥の生息記録が補完できた。
- ・哺乳類は現地調査では確認されず、文献調査によって 5 目 7 科 8 種が確認された。このうち、カヤネズミとスナメリの 2 種が重要種に該当した（スナメリは鳥獣保護管理法の対象外）。

8-2 総括

現地調査と文献調査により 18 目 46 科 142 種の鳥類が確認され、そのうち 49 種が重要種であった（表 8-1）。また、哺乳類は 5 目 7 科 8 種が確認され、重要種は 2 種であった（表 8-2）。

男里川河口鳥獣保護区は、狭い範囲ながら、河川中流域から河口干潟までの鳥類の生息環境を凝縮したような鳥類相を有しているものと考えられた。水辺性の鳥類に加え、草地を好む鳥類も多く確認され、干潟および草地という、近代の大阪府で大きく損なわれた環境の片鱗を保持している希少な区域である。男里川河口鳥獣保護区は、府域の鳥類の生息地として大変貴重な地域であると言える。

なお、現在の鳥獣保護区の範囲の南西側に接続する海岸線（福島地区）には、広く干潟が形成されていた。本業務の現地調査時には、シロチドリ、ソリハシシギ、コアジサシといった重要種が、数は少ないながら確認されている。大阪府で唯一、河口干潟を利用する鳥獣の保護を目的とした保護区として、今後の更新時の調査において、隣接地区の調査を念頭に置き、調査時期等を工夫するよう、検討が望まれる。

表 8-1 (1) 鳥類確認種目録 (1/3)

No.	目名	科名	種名	学名	現地	文献	重要種
1	キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>		○	
2	カモ	カモ	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	●	○	
3			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>		○	
4			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	●	○	
5			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>		○	
6			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●	○	
7			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	●	○	
8			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	●	○	
9			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>		○	
10			シマアジ	<i>Anas querquedula</i>		○	
11			コガモ	<i>Anas crecca</i>	●	○	
12			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	●	○	
13			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>		○	
14			スズガモ	<i>Aythya marila</i>		○	
15			シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>		○	
16			ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>		○	
17			クロガモ	<i>Melanitta americana</i>		○	
18			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>		○	
19			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	●	○	◆
20	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	●	○	
21			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	●	○	
22			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>		○	
23	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	○	
24	カツオドリ	カツオドリ	カツオドリ	<i>Sula leucogaster</i>		○	
25		ウ	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>		○	◆
26			カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●	○	
27			ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>		○	
28	ベリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>		○	
29			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●	○	
30			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	●	○	
31			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>		○	◆
32			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	●	○	
33			クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	●		
34	ツル	クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>		○	◆
35			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>		○	◆
36			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	●	○	
37			オオバン	<i>Fulica atra</i>	●	○	
38	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>		○	◆
39	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	●	○	◆
40			ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>		○	◆
41			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>		○	◆
42			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	●	○	◆
43			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	●	○	◆
44			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	●	○	◆
45			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>		○	◆
46			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>		○	◆
47		ミヤコドリ	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>		○	
48		セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>		○	◆
49		シギ	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>		○	◆
50			オオソリハシギ	<i>Limosa lapponica</i>		○	◆
51			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>		○	◆
52			ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>		○	◆
53			ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>		○	◆
54			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	●	○	◆
55			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	●	○	◆
56			ソリハシギ	<i>Xenus cinereus</i>	●	○	◆

表 8-1 (2) 鳥類確認種目録 (2/3)

No.	目名	科名	種名	学名	現地	文献	重要種
57	チドリ	シギ	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	●	○	◆
58			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>		○	◆
59			オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	●	○	◆
60			ミュビシギ	<i>Calidris alba</i>		○	◆
61			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	●	○	◆
62			ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>		○	◆
63			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>		○	◆
64		ツバメチドリ	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>		○	◆
65		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	●	○	
66			ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>		○	◆
67			ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	●	○	
68			カモメ	<i>Larus canus</i>		○	
69			ワシカモメ	<i>Larus glaucescens</i>		○	
70			シロカモメ	<i>Larus hyperboreus</i>		○	
71			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	●	○	
72			オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>		○	
73			ニシセグロカモメ	<i>Larus fuscus</i>		○	
74			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	●	○	◆
75			アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>		○	
76			クロハラアジサシ	<i>Chlidonias hybrida</i>		○	
77	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	●	○	◆
78		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		○	◆
79			トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	○	
80			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		○	◆
81			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		○	◆
82			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		○	◆
83	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●	○	
84	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	○	
85	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	●	○	
86			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		○	◆
87	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		○	
88		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	○	
89		カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	○	
90			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	○	
91		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>		○	
92		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>		○	
93			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>		○	
94			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●	○	
95		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	●	○	◆
96		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	●	○	
97			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	●	○	◆
98			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>		○	
99		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	○	
100		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	○	
101		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>		○	
102		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		○	◆
103			メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>		○	
104			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>		○	
105			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>		○	◆
106		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	○	
107		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>		○	◆
108		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	●	○	◆
109		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	●	○	
110		ヒタキ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		○	
111			マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>		○	
112			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		○	

表 8-1 (3) 鳥類確認種目録 (3/3)

No.	目名	科名	種名	学名	現地	文献	重要種
113	スズメ	ヒタキ	アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>		○	
114			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		○	
115			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>		○	
116			ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>		○	
117			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>		○	
118			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	●	○	
119			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>		○	
120			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	●	○	
121			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>		○	
122			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>		○	◆
123			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		○	
124			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		○	
125		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	○	
126		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●	○	
127			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●	○	
128			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	●	○	
129			ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	●	○	
130			タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>		○	
131		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		○	
132			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●	○	
133			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>		○	
134			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	○	
135			イカル	<i>Eophona personata</i>		○	
136		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	○	
137			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	●		◆
138			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●	○	◆
139			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	○	
140			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	●	○	◆
141	(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>	●	○	
142	(スズメ)	(ムクドリ)	ハッカチョウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>		○	
	14 目	40 科	142 種		64 種	140 種	49 種

表 8-2 哺乳類確認種目録

No.	目名	科名	種名	学名	現地	文献	重要種
1	齧歯	ネズミ	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>		○	◆
2			ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>		○	
3	兎形	ウサギ	ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>		○	
4	真無盲腸	モグラ	コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>		○	
5	食肉	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>		○	
6		イタチ	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica coreana</i>		○	
7		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>		○	
8	鯨	ネズミイルカ	スナメリ	<i>Neophocaena phocaenoides</i>		○	◆
	5 目	7 科	8 種		0 種	8 種	2 種